

雷電為右衛門生誕 250 周年記念 どんどこ巨大紙相撲大会

取組に至る背景・事業の目的

東御市は、史上最強の力士と名高い雷電為右衛門の生誕地であるが、これまで雷電の顕彰活動は一部の人たちによってしか行われずにいた。平成 29 年は雷電の生誕 250 年にあたるため、当事業を通じて同市の大きな歴史的文化遺産としての認識をさらに広める。

事業内容

- ① 巨大紙力士制作ワークショップ（10/14、10/15）
家族、学校のクラス、企業、地域住民の団体、高齢者施設などがチームを組んで、雷電為右衛門と同じ身長 197 cm の紙力士を制作した。
- ② 巨大紙相撲大会（11/11）
土俵、吊り屋根のほか、行司、審判、呼び出し、部屋割りなど、できる限り大相撲を模して開催し、ワークショップで制作した紙力士の取組を行った。



【相撲大会 白熱する会場の様子】

事業効果

- これまで、雷電に対する市民意識が低かったことから、顕彰活動もなかなか光があたりなかったが、市民には雷電の存在がより身近になった。
- 多くのマスコミにより取り上げられたことによって、県内外に東御市と雷電為右衛門を PR することができた。
- ワークショップには 190 名、相撲大会には出場者、見学者を合わせて 450 名が参加し、世代や様々な立場、役割を超えた市民交流と一体感を創出することができた。
- 商工会や商店、企業、団体からの運営協力や景品協賛などが多数得られた。
- 文化芸術が地域の課題を解決するための大きな力の 1 つであることを理解してもらった。
- 子どもたちに雷電の存在や、相撲の伝統礼節を伝えることができ、また制作や大会参加を通じて、他者とのコミュニケーションを行いながら、協力して創りあげることを体験させることができた。
- 子どもたちも紙力士の制作から大会、神社への奉納までのプロセスに継続的に関わることで、単なる参加者ではなく地域社会における重要な一員であることを味わうことができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 取組数や景品の配分等について、次回は参加者へのアンケートを実施し、運営に反映させる。
- 小学校と連携を図り、雷電学習、ちゃんこ鍋調理実習なども設け、一環した郷土学習に繋げる。
- 実動人員が少なく苦労した反省点を活かし、雷電の顕彰活動に熱心な団体に事業を引き継ぎ、より多くの参加、協力を募っていく。
- いずれは、大会の開催地域を増やし、事業のすそ野を広げていきたい。

【選定のポイント】

江戸時代に活躍した郷土の力士、雷電為右衛門の身長と同じ高さ（197cm）の巨大紙相撲力士を制作するワークショップから、懸賞幕の披露などもある本格的な相撲大会まで、子どもから大人まで地域全体でイベントを作り上げ、地域の一体感を醸成することができた。また、企業の協賛・協力も得られており事業の継続が見込まれ、今後も地域に根付いた取組となることが期待される。

団体名	丸山晚霞記念館協会の（東御市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	会長 柳沢 正和	事業費	597,612円
	0268-62-3700	支援金額	478,000円

国際観光都市松本推進事業

取組に至る背景・事業の目的

当団体は、松本城を中心に松本市内の観光スポットで善意通訳と観光ガイドサービスを行っている。多くの国からの観光客が増える中、英語以外の言語で外国人観光客に松本の魅力や日本文化等を紹介できるガイドの養成を目指すとともに、幅広く市民も受講できる歴史文化講座等を開催し、「おもてなしの心」を広める。

事業内容

- ガイドの多言語化
フランス語、スペイン語、中国語の語学講座を開催し、各言語のガイドの養成を行った。
- ガイドの質の向上
発音クリニックのほか、歴史文化講座及び異文化コミュニケーションをテーマにした講演会を開催した。
- 外国人にやさしい街づくり
市内店舗向け英語メニュー、英語 QA 集、ALSA 紹介カード（ボランティアガイド PR カード）を作成し配布した。



【松本城での案内】

事業効果

- ガイドの多言語化
養成目標を以下のとおり設定。（ ）は平成 30 年度末における養成数
フランス語：5 名（4 名） スペイン語：4 名（4 名） 中国語：6 名（4 名）
- ガイドの質の向上
松本城だけでなく幅広く日本文化の説明ができ、外国人観光客とより良いコミュニケーションがとれるようになった。
- 外国人にやさしい街づくり
・店舗メニュー、英語 QA 集を 46 軒に配布：売上向上、観光客満足度向上
・ALSA 紹介カードの配布：案内者数割合（案内者数/外国人個人入場者数）>10%

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ALSA 紹介カードについては、ホテル・旅館組合と打ち合わせの上、加盟施設に配布を実施したほか、英語 QA 集の作成においても、多くの商店、飲食店から意見・要望を聞き入れ作成した。
- 多言語化については、十分な体制ではないため、会費の見直しや受講者増に取り組み、研修を継続させる。
- 商店街サポートについては、資金面において行政や公民館活動と連携するなどして、ホテル・旅館・飲食店・商店などへの出前講座やより現場に即した資料作りを継続して実施したい。
- 外国人観光客と接する中で得ている情報や課題を、今後、積極的に情報発信したい。

【選定のポイント】

インバウンド観光への対策が求められる中で、ガイドの多言語化のほか、地域の歴史文化を踏まえたガイドができるような観光案内ボランティアの育成を行った。また、飲食店向けに英語質疑応答集等を作成するなど、「外国人にやさしい街づくり」に取り組んでいる。今後より一層増加するインバウンド需要に備え、行政等と連携し、地域住民自ら国際観光都市の実現に取り組むモデル的活動である。

団体名	NPO 法人 アルプス善意通訳協会 (松本市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	副理事長 高山 洋 090-9669-3454	事業費	1,381,702円
ホームページ	http://npo-alsa.com/	支援金額	1,105,000円

北原区くるみによる元気な地域づくり事業

取組に至る背景・事業の目的

平成 20 年度にオーナー制度を活用してくるみの苗を植え、以来、委員会をはじめ地域住民により育成されてきた結果、平成 28 年に一部収穫できるまで成長した。

そこで、収穫祭を開催してオーナーと交流するほか、収穫から販売までのビジネス過程において、不足している備品やノウハウを得て、くるみのブランド化、試行販売を行い、コミュニティビジネスとして確立させ、区費負担の軽減を図る。

事業内容

- 収穫したくるみを洗浄する機械の購入、くるみを乾燥させる棚の設置等
- オーナーがくるみを収穫するシステム（ルール）の構築、オーナー表示用のベストの作成、収穫祭の開催
- マーケティングの専門家を交えた住民主体による統一ブランド・地域販売運営組織「きたはらスタイル」を立ち上げ、道の駅で商品名「村ぐるみ」として試行販売



【ブランド化・試行販売した「村ぐるみ」】

事業効果

- 収穫祭は、オーナー 20 名中 8 名、付添 5 名の計 13 名が参加
- くるみの収穫のほか、区民 15 名と交流
- 平成 29 年度は、収穫した 4,000 個のくるみのうち約 1,000 個が販売可能で、来年度以降収穫量も増えることから、継続的に収益が得られる見込みが立った。
- 収穫祭のほか、年間を通して都市のオーナーと交流することで、オーナーに北原区が「第 2 のふるさと」という思いが醸成され今後の移住への足掛かりや関係人口の創出につながった。



【地域運営組織「きたはらスタイル」】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

くるみのオーナーが今後くるみの木の世話や収穫を行うため北原区を訪れる回数を増やすことにより、交流からさらに移住・定住への促進を図りたい。

また、販売可能なくるみの量を増やし道の駅等に出荷することにより、コミュニティビジネスを行い、その収益を活用して区民の負担軽減や地域活性化に役立てていきたい。

【選定のポイント】

平成 20 年度の制度導入以来、くるみの木オーナーは、毎年北原区を「第 2 のふるさと」として訪れ、地域住民との交流を継続している。委員会は地域会社「きたはらスタイル」を立ち上げ、マーケティングの専門家、住民とのワークショップで検討した結果、収穫したくるみを「村ぐるみ」として道の駅で試行販売を行った。これらの取組は、関係人口の創出、コミュニティビジネスモデルとして発展性が期待できる取組である。

団体名	北原区ふるさと暮らし支援委員会 (飯山市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	事務局 0269-65-4049	事業費	756,720円
		支援金額	592,000円